

化学 授業指導計画

授業者 下西 晃貴

- 1 日 時 令和3年2月12日(金) 5限
- 2 実施場所 23HR教室(南館4階)
- 3 H R 23HR
- 4 生徒観 授業にまじめに取り組むことができているが、学力差は大きく、理解度が低い生徒もいる。また、理解度が高くても「なぜその答えになるのか」を、科学的根拠をもとに答えることを苦手としている生徒が多い。
- 5 単 元 有機化合物の特徴と構造
- 6 本時の目標 ①有機化合物は原子のつながり方が多様であるために、種類が多いことを理解する。
②分子模型を用いて、構造異性体であるかないかの議論を行うことができる。
- 7 本時の展開

	指 導 事 項	留 意 点
導 入 (10分)	C_3H_8 には構造異性体が存在しないこと、 C_4H_{10} の構造異性体が2種類であることを分子模型を用いて説明する。	
展開1 (10分)	2人1組のグループで、 C_5H_{12} のさまざまな構造式から、構造異性体は何種類存在するか考えさせる。	分子模型を用いて考えさせ、回転させると同じ構造になるものに注意させる。
展開2 (25分)	4人1組のグループで、 C_6H_{14} のすべての構造異性体の構造式を考えさせ、発表させる。	話し合いは、分子模型を用いたり、紙面に書き出したりするなどして進めるよう言葉かけを行う。
まとめ (5分)	有機化合物は、構成元素の種類は少ないが、原子のつながり方などが多様であるために、種類が多いことを理解させる。	